

第八章:[調査②-2(Q.27)]

JOCV 海外教育経験教員の「国際教育協力」に対するイメージ比較 —JOCV 海外教育経験教員対象・アンケート調査(問 27 抜粋)分析結果—

佐藤真久
(東京都市大学)

1.はじめに

本稿では JOCV 海外教育経験教員を対象とし、JOCV 海外教育経験教員における国際教育協力についての認識を捉えることを目的とする。とりわけ、派遣前教員の「国際教育協力」のイメージ([派遣前イメージ調査])と、派遣後教員の「国際教育協力」のイメージ([派遣後イメージ調査])には、どのような認識の差があるかを明らかにすることを目的としている。調査方法には、自由連想法(Free Association Methods)を採用し、刺激語に「国際教育協力」を設定し、アンケート調査票調査の形式にて、[派遣前イメージ調査]・[派遣後イメージ調査]のサンプル採取を行った。

本調査は、派遣前と派遣後の教員を対象に、「国際教育協力」のイメージの差異を比較するものであるが、ある特定の教員グループ(派遣隊次)の派遣前・派遣後のイメージ(対応あり)を比較しているものではない。比較対象とする調査の母集団は異なっている(対応なし)ため、あくまで、各調査対象の有する「国際教育協力」のイメージを把握することを通して、派遣前教員と派遣後教員の認識変化をシミュレーションする目的で調査を実施した。[派遣前イメージ調査]は、平成 22 年 1 月 9 日に筑波大学にて開催された「青年海外協力隊等派遣現職教員特別研修」の参加者(派遣前教員:76 名)とした¹⁹。一方、[派遣後イメージ調査]は、[調査②-2(Q.27)]によりデータの回収を行った(派遣後教員:124 名、アンケート配布数:572、回収率:21.6%)。

2. アンケート調査[調査②-2(Q.27)]実施概要

自由連想法とは、自由記述式の質問手法で、回答者にある単語(刺激語)を提示し、その語からどのような言葉が連想されるか記述してもらう方法である。この方法では、調査者側の意識が回答に影響しにくく、各人の先行経験から自発性と重要性のある回答を得ることができる。また本調査では、精度を上げるために数量化Ⅲ類を行った後クラスター分析を行った。

アンケート調査票の内容としては、刺激語(国際教育協力)から連想される連想語を 5 語以内で自由記述する形式を採用した。まず、回収したサンプルデータの頻度集計に基づく調査結果(連想語総数、連想語種数、連想語分類)を行った。さらに、「国際教育協力」についての認識構造を知るために、数量化Ⅲ類によるサンプルスコア抽出に基づくクラスター分析を実施した。クラスター分析を通じた連想語間の距離計算においては、原データの距離計算をユークリッド距離とし、合併後の距離計算はワード法とした。

¹⁹ [派遣前イメージ調査]に関しては、文部科学省、筑波大学教育開発国際協力研究センターの協力のもとで実施された。

3. アンケート調査[調査②-2(Q.27)]結果

3.1. 頻度分析

参加者の刺激語「国際教育協力」に対する連想語の連想語総数、連想語種数、平均回答数、標準偏差、及び刺激語「国際教育協力」に対する[派遣前イメージ調査]と[派遣後イメージ調査]での連想語の回答頻度が高いものをまとめたものである(表 8-1, 表 8-2)。[派遣前イメージ調査]・[派遣後イメージ調査]における、平均回答数、標準偏差を比較すると、[派遣後イメージ調査]は、[派遣前イメージ調査]に比べて平均回答数が高いことから、派遣後の経験教員は、「国際教育協力」に関して比較的多くの連想語を回答していることがわかる。また、連想語における標準偏差は[派遣前イメージ調査]、[派遣前イメージ調査]ともに 2.06 で、「国際教育協力」に対する回答数のばらつきは同程度であることがうかがえる。

【表 8-1:[派遣前イメージ調査]:
刺激語(国際教育協力)に対する
連想語頻度数(頻度 3 以上)】

連想語	分類*1	頻度
共生	[関係論的世界観]	24
ボランティア	[国際協力]	12
JICA	[国際協力]	9
平和	[国際協力]	8
開発途上国	[国際協力]	8
理解	[コミュニケーション]	7
相互理解	[コミュニケーション]	7
コミュニケーション	[コミュニケーション]	7
未来	[象徴的比喩]	6
国際理解	[コミュニケーション]	6
交流	[コミュニケーション]	6
文化	[象徴的比喩]	5
異文化理解	[コミュニケーション]	4
語学力	[コミュニケーション]	4
発展	[国際協力]	3
発信	[国際協力]	3
仲間	[象徴的比喩]	3
地球	[象徴的比喩]	3
自文化理解	[コミュニケーション]	3
支援	[国際協力]	3
笑顔	[象徴的比喩]	3
地域とのつながり	[関係論的世界観]	3

【表 8-2:[派遣後イメージ調査]:
刺激語(国際教育協力)における
連想語頻度数(頻度 4 以上)】

連想語	分類*1	頻度
異文化理解	[コミュニケーション]	24
平和	[国際協力]	17
ボランティア	[国際協力]	14
コミュニケーション	[コミュニケーション]	12
開発途上国	[国際協力]	11
共生	[関係論的世界観]	9
笑顔	[象徴的比喩]	7
理解	[コミュニケーション]	6
JICA	[国際協力]	6
外国語	[コミュニケーション]	6
愛*2	[象徴的比喩]	6
未来	[象徴的比喩]	6
助け合い*2	[関係論的世界観]	5
つながり	[関係論的世界観]	5
青年会海外協力隊*2	[国際協力]	5
交流	[コミュニケーション]	5
異文化交流*2	[コミュニケーション]	5
他者理解*2	[コミュニケーション]	5
教師教育*2	[教師の資質・教育の質]	4
教育の質*2	[教師の資質・教育の質]	4
相互理解	[コミュニケーション]	4
柔軟性*2	[教師の資質・教育の質]	4
多様性*2	[関係論的世界観]	4
グローバル化*2	[関係論的世界観]	4

連想語総数	238
連想語種数	136
平均回答数	3.06
標準偏差	2.06

連想語総数	493
連想語種数	280
平均回答数	3.88
標準偏差	2.06

*1: 分類項目: 象徴的比喩, 関係論的世界観, コミュニケーション, 教師の資質・教育の質, 国際協力
※分類項目の設定と分類は、筆者の見解に基づく

*2: [派遣後イメージ調査]において、新規出現の連想語

[派遣前イメージ調査](表 8-1)では、最も回答頻度が高い連想語として、「共生:24」、「ボランティア:12」、「JICA:10」が回答された。回答頻度 3 以上の連想語(22 語)の約 3 割強(8 語)が「コミュニケーション」に関する連想語であり、次に「国際協力」が約 3 割(7 語)回答されていた。

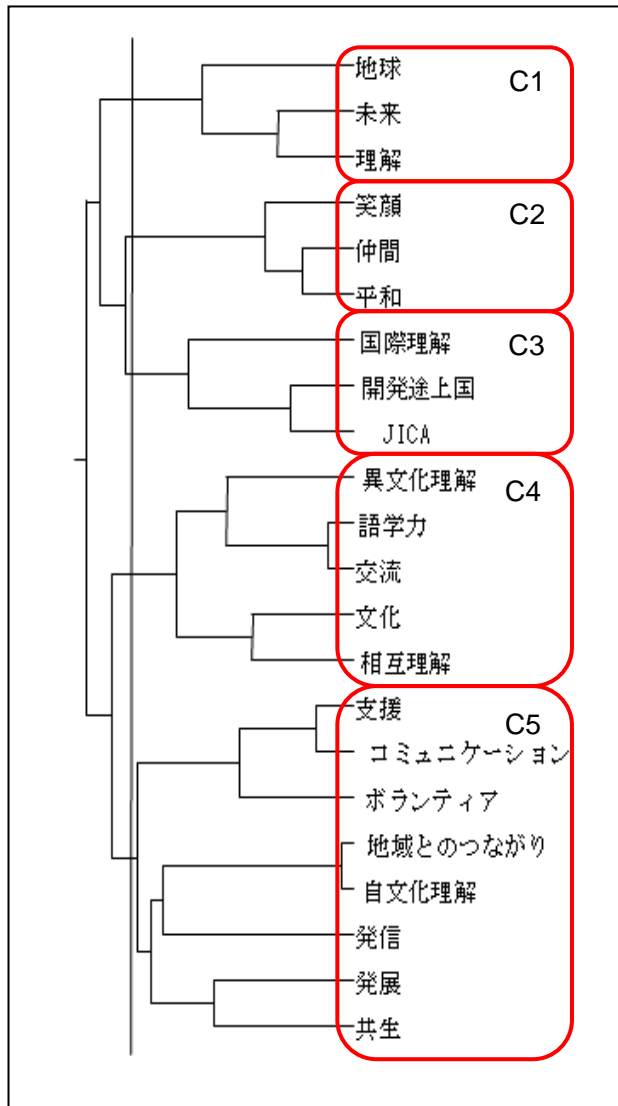
[派遣後イメージ調査](表 8-2)では最も回答頻度が高い連想語として、「異文化理解:24」、「平和:17」、「ボランティア:14」が回答された。回答頻度 4 以上の連想語(24 語)の約 3 割(8 語)が「コミュニケーション」に関する連想語であった。続いて「国際協力」に関する連想語(5 語)、「関係論的世界観」に関する連想語(5 語)が約 2 割であった。回答頻度の高い連想語の分類においては、比較的、「コミュニケーション」と「国際協力」、「関係論的世界観」に関する連想語が多く、また、表 8-2 で示されている「コミュニケーション」に関する連想語のほとんどがコミュニケーションの語学力といった「手段・方法」ではなく、コミュニケーションに内在化された意味合いに関する連想語が挙げられていた。

さらに、[派遣後イメージ調査]においては次の「愛:6」、「助け合い:5」、「青年海外協力隊:5」、「異文化交流:5」、「他者理解:5」、「教師教育:4」、「教育の質:4」、「柔軟性:4」、「多様性:4」、「グローバル化:4」といった 10 個の新規出現の連想語が回答され、[派遣後イメージ調査]における約 3 割の回答を占めている。このことから青年海外協力隊に参加したことにより、国際教育協力には、「多様性」、「グローバル化」、「異文化交流」といった「国境を越えた価値観」を重要視することがうかがえる。また「教師教育」、「教育の質」のように国際教育協力における「教師の資質と教育の質」が重要視される傾向がうかがえた。

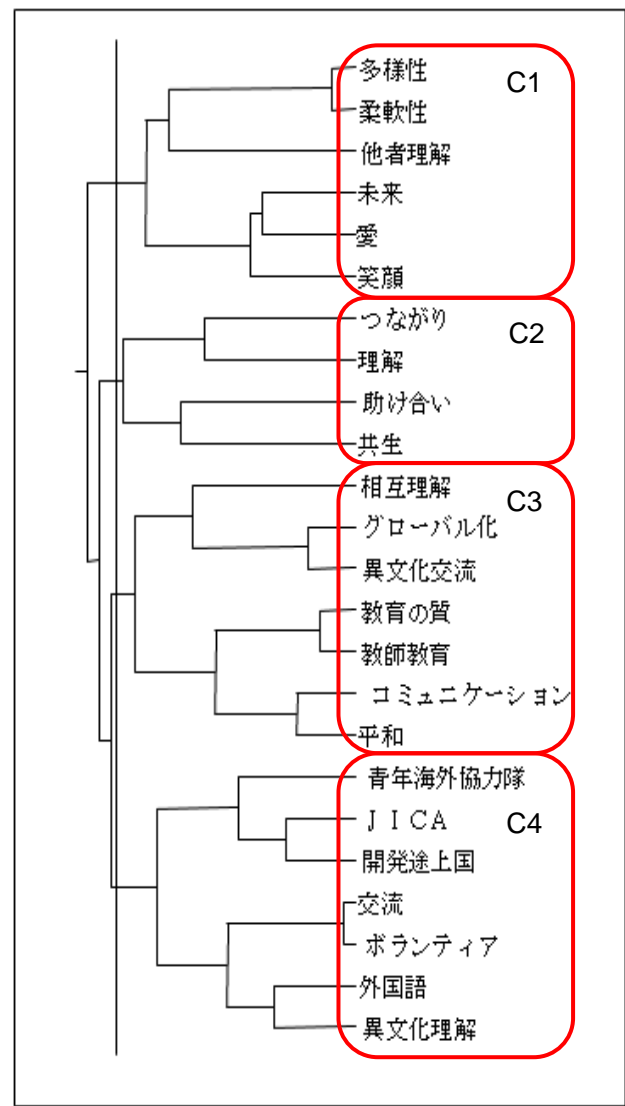
3.2. クラスタ分析

[派遣前イメージ調査](※図 8-1 参照)

- 第一クラスター(C1)は「地球の未来」に関するクラスターである。本クラスターでは「未来」と「理解」のがグルーピングされていることから、「地球の未来を理解する姿勢」が形成されていると考えられる。
- 第二クラスター(C2)は、「人々のつながり」に関するクラスターである。このクラスターでは「笑顔」、「仲間」、「平和」のように自分の周りの人々、すなわち「人々とのつながりとのより良い関係」に関する連想語がグルーピングされている。
- 第三クラスター(C3)は、「青年海外協力隊」に関するクラスターである。第三クラスターでは開発途上国、JICA のように「青年海外協力隊」に関する連想語がグルーピングされている。
- 第四クラスター(C4)は「国際協力に必要なスキル」に関するクラスターである。第四クラスターでは異文化理解と語学力がグルーピングされていることから、異文化理解のためには語学力が必要であると考えられていることがうかがえる。また相互理解と文化がグルーピングされていることから、双方理解のためには、お互いの価値観、文化を考える必要があるとの認識があるといえる。
- 第五クラスター(C5)は「国際協力に求められるもの」に関するクラスターである。このクラスターでは「支援」と「コミュニケーション」、「ボランティア」とがグルーピングされていることから、「ボランティア=支援」すなわち、「双方向的な関係」ではなく、「一方向的な協力」との認識があることがうかがえる。またその一方で、「共生」と「発展」との類似度が高いことから、地域とのつながりが発展へと繋がるとの認識があることがうかがえる。



【図 8-1: 連想語間のクラスター分析樹形図】
 刺激語:「国際教育協力」, [派遣前イメージ調査]
 (連想語頻度 3 以上)



【図 8-2: 連想語間のクラスター分析樹形図】
 刺激語:「国際教育協力」, [派遣後イメージ調査]
 (連想語頻度 4 以上)

[派遣後イメージ調査](※図 8-2 参照)

- 第一クラスター (C1) は「より良い人間環境に向け求められるスキル」に関するクラスターである。「多様性」, 「柔軟性」といった「国際教育協力を行う上で求められるスキル」に関する連想語と, 「愛」, 「笑顔」といった「良い人間関係」に関する連想語がグルーピングされていることから, より良い人間関係が形成されるには「幅広い価値観」, 「多様性」を理解すること(他者理解), またその姿勢(柔軟性)が求められるとの認識が読み取れた。
- 第二クラスター (C2) は「人々のつながり」に関するクラスターである。「共生」, 「助け合い」, 「つながり」, 「理解」がグルーピングされていることから国際教育協力において「他者との相互的なつながり」が重要であるとの認識があること読みとれる。
- 第三クラスター (C3) は「国境を越えた世界観に基づく教育」に関するクラスターである。本クラスターでは「教育の質」, 「教師教育」といった「教師の資質・教育の質」に関する連想語と, 「異文化交流」, 「グローバル化」, 「コミュニケーション」といった「国境を超えた世界観」に関する連想語と一緒にグルーピングさ

れていることから、国境を越えた世界観を有する教育の概念が必要であるとの認識があることが読み取れる。

- 第四クラスター(C4)は「青年海外協力隊」に関するクラスターである。では「JICA」、「青年海外協力隊」、「ボランティア」といった連想語がグルーピングされていた。このことから国際教育協力における青年海外協力隊の活動が強く認識されたことが読み取れる。

4. アンケート調査[調査②-2(Q.27)]考察

以上のような[派遣前イメージ調査]、[派遣後イメージ調査]による刺激語「国際教育協力」に関する認識構造の比較を通して、以下の点において有意すべき変化があったと言えよう。

- [派遣前イメージ調査]においては「支援」と「コミュニケーション」、「ボランティア」とが一緒にグルーピングされていたことから、国際教育協力は一方向的な関係で行われるものとして認識されていたことがうかがえる。一方、[派遣後イメージ調査]においては、上位の連想語には「支援」は回答されていないこと、「交流」と「ボランティア」とが一緒にグルーピングされていること、また「助け合い」、「異文化交流」といった「相互関係性」を表す連想語が各クラスターにグルーピングされていることから、国際教育協力において相互関係すなわち、「横での国境を越えた広がり」が重要で認識されたという事が読み取れる。
- [派遣後イメージ調査]では、「共生」、「助け合い」、「つながり」、「多様性」、「グローバル化」といった「関係論的世界観」に関する連想語が出現しており、海外ボランティア活動を通してさまざまなものを関連づけ、事象や主体の「つながり」や「かかわり」を重要視されていることが読み取れた。
- [派遣後イメージ調査]では、「教育の質」、「教師教育」、「柔軟性」といった「教師の資質・教育の質」に関する連想語が出現しており、海外ボランティア活動を通して、開発加入目的の「援助」という概念よりも、人間の成長を目的とした「教育」が重要視されていることが読み取れた。